

江戸の暮らしから
明治の暮らし
そして
大正の暮らしがあり
昭和の暮らしがあった
さらに
平成の暮らし
いまは
令和の暮らし

そこには
なんとか痕跡も残され
身近に感じることができる
300年の暮らしがあった
子供の頃には
一世代は20年と教わった
しかし、今は30年と長寿になっている
30年×10倍=300年

日本の伝統的な暮らしは 地球と共生していた

その300年前から始まった産業革命
その産業革命後によって何が起きたかの。

薪と木炭の火から蒸気が作られ **蒸気機関が発明**され
た
さらに火力のある **石炭・石油**へと燃料は変わって
いった

その結果、地球上の二酸化炭素は急激に増大した

地球の温暖化は急速に進み、**深刻な気候変動・地球温暖化**を招くことになったのである

ここで改めて、日本の先人たちが歩んできた作法・
知恵
に着目することが大変重要なことであることに気づ
く
たたむ・しまう・ほぞんする・室名ではなく間とい
う概念が多目的/転用を享受する

持続可能な住まいと暮らしのヒントがここにある

共催 一般社団法人エコハウス研究会
新建築家技術者集団岐阜支部

講話 **丸谷博男**

一般社団法人エコハウス研究会代表理事・新建築家技術者集団東京支部代表幹事

2022年 **4月06日 wed** 18:30~20:30 名古屋市

4月07日 thur 18:30~20:30 岐阜市

4月08日 fri 18:30~20:30 四日市

会費 2000円

申込先

<https://ws.formzu.net/fgen/S75519222/>

名古屋会場 名古屋市千種区吹上2-6-3 名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）第6会議室

電話052-735-2111

岐阜会場 岐阜県岐阜市司町40-5 ぎふメディアコスモス／かんがえるスタジオA1

電話058-265-4101

四日市会場 四日市市葛岡町7-16-1 四日市文化会館 第2会議室

電話059-354-4501

参考資料 ◆会報「そらどま」2022年春号 <http://data.ecohouse.ac/data/newsletter-2022-spring.pdf>

持続可能な社会における住まいと暮らしのあり方を問う

一昨年の2020年は、1920年（大正9年）の分離派建築会宣言から始まる日本近代建築運動100年という節目でした。そして太平洋戦争後77年の節目にあたり、改めて今、建築人に求められている課題、生き方を皆様にお伝えします。ここで言う「建築人」とは、建築家、建築技術者、建築関連研究者・市民活動家など建築や町を愛し、それらのより良いあり方を求めている人々を意味しています。

戦後の復興は日本にとっては輝かしい道でした。そしてアジア、世界に対しても目覚ましい発展を示しました。しかし、その道は持続可能な道ではなく、失ったものも少なくないものがありました。世界は日本の暮らし方、日本人の文化に多くの共感を抱いています。そのような日本にあって、日本人である私たち自身が失ったものを取り戻し、環境共生的・地球共生的な暮らし方、社会の姿を取り戻さなければなりません。

そのように決意すると、これらすべてのキーワードは、「日本の木で木造建築をつくる」ことに尽きることに気がきます。

豊富な森林は豊富な水資源を生み出します。そのお陰で美しい山谷があり、溪谷を生み出し、なだらかに広がる平野を作り出します。山のミネラルは豊かな海洋資源を作り出し、山海の資源を生み出すのです。言い換えれば、総合的な生業として「観光」があるのです。日本の観光は、日本の伝統芸能や食の世界なども含め地球視野・世界視野での価値があります。木造建築の街並みはさらに美しい日本を生み出していくことでしょう。もう一つのキーワードは「生業の生態系の保全」（by三井所清典）です。

